

■日時

2017.10/22(日)

13:00 ~ 17:20

■会場

愛知大学 豊橋校舎
研究館1階 第1・2会議室

標準語とと思っている方言、
気づかないところにある方言、
みんなの知らない方言について
考えてみましょう！

■プログラム

- | | |
|---------------|---|
| 13:00 - 13:10 | 開会あいさつ
伊東 利勝 (愛知大学人文社会学研究所所長) |
| 13:10 - 13:50 | 標準語のようで標準語ではない愛知県のことば
朝日 祥之 (国立国語研究所) |
| 13:50 - 14:30 | 方言に現れる発音の特徴 — 気づきやすいものから気づきにくいものまで —
宇都木 昭 (名古屋大学) |
| 14:30 - 15:10 | 自分の「声」としての方言 — メディアの中の方言使用を例に —
太田 一郎 (鹿児島大学) |
| 15:10 - 15:30 | 休憩 |
| 15:30 - 16:10 | 「方言」の飛び交う国会審議
松田 謙次郎 (神戸松蔭女子学院大学) |
| 16:10 - 16:50 | 地方議会会議録にみえる方言
二階堂 整 (福岡女学院大学) |
| 16:50 - 17:10 | 質疑応答 |
| 17:10 - 17:20 | 閉会あいさつ |

みんなの知らない
方言の世界

交通アクセス

豊橋鉄道渥美線
「愛知大学前」下車すぐ



※ご来場の方は公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ先

愛知大学人文社会学研究所

〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1

TEL : 0532-47-4167

E-mail : irhsa@ml.aichi-u.ac.jp

URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/irhsa/>

申込不要

聴講無料

みんなの知らない方言の世界

講演概要

標準語のようで標準語ではない愛知県のことば

朝日 祥之（国立国語研究所）

愛知県の出身であれば、「自分は標準語を使っている」と考える人は少なくない。もちろん、旧来からの方言（名古屋弁、三河弁など）として知られてきた「方言」は、生活様式や習慣、食品、こどもの遊びなどに存在してきたが、その多くは現在使用しなくなっている。ここでは、私たちが「標準語」だと思っているものが実は「方言」であることを、身近な例を挙げながら詳しく紹介する。

方言に現れる発音の特徴

— 気づきやすいものから気づきにくいものまで —

宇都木 昭（名古屋大学）

土地が変われば発音が変わるというのは、多くの人が実感するところだろう。方言の発音におけるいくつかの特徴（例えばアクセントやイントネーション）は、私達が耳で聞いて比較的気づきやすいものだ。一方で、研究者が明らかにしてきた特徴のうちには、耳で聞いてもなかなかわからないがコンピュータで分析すれば一目瞭然というものもある。このように気づきやすいものからそうでないものまで、様々なタイプの発音の特徴をここでは紹介していきたい。

自分の「声」としての方言

— メディアの中の方言使用を例に —

太田 一郎（鹿児島大学）

最近の若者の方言の使い方を観察していると、たとえば首都圏の人が「なんでやねん」と関西弁でツッコミを入れるなど、自分が生まれ育った地域以外の方言を使う例をよく見かける。このような方言の使用は、方言と地域の結びつきがだんだん弱くなり、地域の枠を超えて人びとが利用できる「ことばの資源」となったためと考えることができる。この発表では、朝ドラ「あまちゃん」に見られる方言と標準語の切り替えを例に、現代社会における方言の意味を考えてみたい。

「方言」の飛び交う国会審議

松田 謙次郎（神戸松蔭女子学院大学）

「国権の最高機関」と称される国会における発言は、そのすべてが国会会議録に収められており、最近では衆参両院による審議動画の公開も行われている。こうした発言記録を分析すると、国会審議においても議員の出身地方言が使われていたり、国会のみでしか通用しない「国会方言」が誕生し拡散していることが分かる。ここでは、一般にはあまり知られていない国会における方言使用について詳しく紹介したい。

地方議会会議録にみえる方言

二階堂 整（福岡女学院大学）

現在、全国の地方議会の約 8 割が、会議録（いわゆる議事録）をネット上に公開している。会議録は基本的に議員の発言をそのまま文字化している。この会議録を、その土地の話し言葉の資料として利用することが可能である。本講演では、地方議会の会議録を使って、現在のその土地の方言の状況を明らかにしていく。